



そよかぜ 志免立坑櫓・特集号

発行責任者 古庄信一郎後援会 TEL.FAX 092(621)4050

中国・撫順市の立坑櫓 とは兄弟立坑櫓 櫓を通して 姉妹都市を締結

昨年8月、同士の議員と中国・撫順市を訪問。区の議長他幹部と意見交換をいたしました。

撫順の立坑櫓は、戦前満州鉄道として日本人が建設したもので、この技術をもって造ったのが「志免立坑櫓」です。志免炭鉱の鉱石と撫順の鉱石を交換し、志免、須恵町に展示しています。

今中国とは大変悲しい状態にあります。こんな時こそ歴史と形ある共通の物を見つめあい、互いに理解しあうことが大事です。

そのシンボルこそ「志免立坑櫓」です。

中国・撫順の立坑櫓



近代産業遺産の 観光ルートを確立

その中心に志免立坑櫓を

アジアへ向けた観光戦路を展開しようとする福岡。その拠点福岡空港に隣接する志免町。

南には大宰府国立博物館と天満宮。そしてすぐ横にはダイアモンドシティー。北にトリアスとやがてオープンする映画テーマパーク。

これらの中心にそびえるのが「立坑櫓」でありボタ山です。これらと粕屋中南部に点在する産業遺産を「ミュー

ジウムとし、大宰府や商業施設と連携し人の流れをつくる。

昨年、鹿児島で開催された「全国産業観光フォーラム」に参加したが、基調講演をされた多摩大学の望月教授の言葉、「遺産は知産」

古き知産を磨いて 地域を開く

まさに「志免立坑櫓」と周辺に投げかけられた言葉です。

私はダイアモンドシティーに対抗して「黒ダイヤ(石炭)通り」と銘打って街並みづくりを推進すべきと提言しています。

軍艦島などと九州の産業遺産をネットワーク化し 世界遺産登録へ

昨年長崎軍艦島フォーラムに参加し、九州の近代産業遺産をネットワーク化し、それを世界

遺産に登録しようとの提案がなされ今関係者と協議をしています。

九州大、石炭研究資料センターを誘致し 世界に誇れる 教育ゾーンを

子供達の郷土史教育の拠点として九大石炭資料センターを誘致し、九州総合石炭資料センターを開設する。

世界中から色んな人が訪れるでしょう。歴史に生きてきた先人が「語りの部」として嬉しそうに当時を若い親子づれに語り、未来を担う子供たちの豊かな心と研究心を創出する場。そんな空間になれたら最高ですね。

子供たちの 生きた教材 それを壊すことが できませんか

子供たちの生きた教材を壊すことができませんか

高さ 53.63mの「立坑櫓」



「志免・立坑櫓」は 世界一の遺産 それを壊すことが できませんか

志免炭鉱は明治22年に採炭を開始し良質の石炭として戦前は海軍戦後は国鉄と、全国で唯一、一貫して国産炭鉱として栄えました。

立坑櫓は、昭和18年5月に完成し、「コンクリート造りの「ワインディング式立坑櫓」では世界最大・最古、つまり世界一のもの」です。

また建築物としても日本土木学会は全国約2,300施設の「近代土木遺産」の中で、門司港駅舎や長崎出島櫓と同じくトップのAランクに評価を付けています。

福岡沖地震でも 強固さを証明

強固さを証明

NHKテレビ「発見 ふるさとの宝」で 全国で紹介

NHKテレビの新番組「発見ふるさとの宝」に「志免立坑櫓」が取り上げられ4月5日に全国放送されました。

志免東小学校の子供たちは毎年「立坑櫓」を町の宝物の一番として「立坑新聞」を発行していますが、番組はこの子供たちの目から見た「ふるさとの宝物」として立坑櫓の概要、歴史と子供

たちの声が紹介され、特に短いながらも当時の炭鉱入坑や商店街の映像には感動いたしました。

「立坑櫓があるけん 志免やろもん」

子供たちにとって志免の誇り、宝物がこの「立坑櫓」です。

放送の中で子供たちは「立坑櫓があるから町の歴史として石炭について興味を持ち学び気になった」と語っています。

放送でゲストとして出演された方々の「立坑櫓」に送る言葉が実に素晴らしく心を打つものでした。(下記)

この言葉を刻んだ「宝物認定書」が東小学校の校長室に誇らしげに飾られておりこれも志免の「宝物」です。

純粋な子供たちの 研究や町関係者に 異議を唱える議員の 議員に、おが痛む!?

議員に、おが痛む!?

立坑櫓に頂いた言葉

「備えて家族を支えた
その証」

市田ひろみ (服飾評論家)

「先人の誇りを宿す塔」

東儀秀樹 (舞臺師)

「思い出の
フラックホール」

伊東順一 (美術評論家)

トピックス

- ◆ 4月5日・NHK「発見ふるさとの宝」で全国で紹介される
- ◆ 台風でブロック片が落下。その実態は今後検討
- ◆ 中国・撫順炭鉱視察、兄弟立坑櫓を締結し日中友好のシンボルに
- ◆ 観光振興活用のため運輸局が「九州の近現代遺産百一選」を選定、立坑櫓も掲載予定か?の関与で未掲載。許されない出来事
- ◆ 「住民の会」発足

お知らせ! 立坑櫓の住民の会が発足します。たくさんの皆様の参加を待っています!

- ◆ 「志免町立坑櫓を活かす住民の会」… 発足・総会
5月中旬から下旬の予定 (新聞報道をご覧ください!)
- ◆ 「日本産業技術史学会第21回総会」… 志免立坑櫓関係シンポジウム他
6月18日(土) 午前9時20分より シーメイトホール (参加自由)

※ 古庄信一郎の手づくりホームページ 覗いてください! 本音がいっぱい!
アドレス ... <http://homepage2.nifty.com/furusho/>

動きと問題点

4度の台風で「コンクリート片落下」?

昨年8月末からの4度の台風で「びし」から小指のシメほどのコンクリート片60個が落下し、一部が福祉施設シーメイト、ジョギングロード上にも落下。

しかしこれが橋壁面のコンクリートが剥がれて落下したのか、各階にたまったコンクリート片が舞い、落下したのか未だに不明です。

私の肉眼では剥離の確認はできなかつた。

町会員の

対応に矛盾

9月、志免町は立坑橋の持ち主であるネト(下記※)に「安全対策」を公文書で申し入れましたが、その文面に「シヨ



立坑橋の真下「ロード建設

キング時コンクリートの破片が落ちて来るような恐怖感を覚えるとの意見が(町会)日増しに数多く寄せられている。早急に万全の対策を」と記述しています。

しかしジョギングロードを管理する福祉課は一度もこのような町民の声を聞いておらず、厚生委員会に町長の出席を求め、地域振興課(ネト)との交渉拒否(課)に事実を確認する「恐怖感を訴えたメールが1件あっただけ」と分り、公文書内容の行き過ぎを認めました。

このような強行要請をすれば「壊す」となることは明白で、対応策のまずさと虚偽をもっての要請は大変問題な点です。

これを受けネトは基本的に「1年以内の解体」を強行に表明してきたわけでは

なぜ立坑橋の真下に「ジョギングロード」を建設?

地域振興課は議会の志免鉱業所跡地対策特別委員会と強風下のコンクリート片落下の議論をしておきながら、福祉課が橋の真下にジョギングロードを建設することに何らの警鐘も指導もせず、今回の落下に対して虚偽とも言える表現で強硬な安全対策をネトに要求するのは筋違いです。常識ではジョギング

ロードは橋の真下から避けて建設するのが当然で、議会で質問してもこの点の反省なり判断についての回答は何もされない。

保存か解体かは

志免町の意向次第

町長「残せるものなら残したい」

「見守り保存」の可能性を調査

来年3月までに

方針決定

「保存か解体か志免町は1年以内」に回答を」とのネトの強硬な姿勢に町は来年3月まで土地と立坑橋をネトから賃借する契約を結び大(学教授ら)「見守り保存(あまり補強をせず自然の状態での保存)」の可能性について調査研究を依頼しました。問題は「見守り保存」と言いが60年も放置さ

れた橋。何の手も加えないことを条件とした調査であれば非常に狭義な結論しかでてこない。どのような技術と、どれだけ金と手を加えればどのような保存ができるのか。少なくとも橋の価値と保存を町民に問うのであれば数通りのシミュレーションくらいは提示しなければ議論に値しない。

文化遺産としての保存は数千万円でOK

見守り保存だと

もっと安価

「文化遺産」としての保存であれば工費を省く5千万円程度で少なくとも30年以上はコンクリートの劣化と崩落を防止し保存できると言いつ専門業者の試算も頂き公表しました。また今回調査しようとしている「見守り保

存」であればもっと経費的には安価となります。

「保存」3.6億円

の試算の真相は

平成10年に調査され公表された解体・約3億4千万円、補強費(保存)・約3億6千万円といふ試算は、立坑橋をネトに解体させ土地を更地にして無償で譲り受けをする駆け引きに出された試算で、保存費でなく補強費です。

現町長も理解されていますが、当時の町政状況からやむおえない試



古庄・本議会で立坑橋関係質

算で、未だにこの金額を正当化し「残すのに膨大な費用がかかる」との議論をされている方々に、いろいろな保存ケースによって費用が違つことを是非ご理解頂きたい。

ネトは立坑橋付きで

土地も橋も無償で

志免町に譲渡

「志免炭鉱九十年史」によると、昭和40年、現在のネトの前身「石炭鉱業合理化事業団」は立坑橋の無償譲渡を「東洋唯一のもので、構造の特殊性から歴史的に価値がある」として持ち主の国鉄に申請し無償で譲渡を受けたという。

今回、町長はネトを訪問し過去からのネトの方針「立坑橋付きの土地無償譲渡」の再確認をしたところその方針に間違いはないとの回答を得本議会で報告された。解体後無償で土地を

取得するのであれば、橋こみ無償でとりあえず志免町のものとし、時間をかけて解体か保存か議論することも有効な選択です。むしろこの方が最良策かも知れません。

志免立坑橋が

九州の近代化

遺産百一選

に選ばれるも国会議員の関与で掲載されず

日本は「デジタルパンキャンパーン」と銘打って外国観光客年間一千万人増を展覧し、九州は国民一体で「九州観光推進機構」を立ち上げ同じく観光推進を共通政策として展開中。

この一環として九州運輸局は「老朽化した建造物を解体する動きもあり、後世に残すべき遺産や機構を選び身近な歴史を見直すきっかけと観光振興に活用する



新聞報道されるも掲載なし

として「九州の近現代遺産百一選」を作成。これに志免立坑橋が掲載と大きく写真入りで新聞報道されましたが、その後九州運輸局を訪問し幹部に面談すると「志免立坑橋は掲載しない」と大変ショックな回答を得、この決定に地元国会議員W氏の関与があったことを幹部から聞き愕然としたしました。保存か解体かの議論を今まさに町民あげてやっている矢先、いろいろな可能性を開示共有し

議論すべきなのに、志免町にとって大きな町興し、商生活性化の芽を国会議員に摘まれるとは。歴史に残すべき事件である。怒れ、商工会、

どの遺産よりも確大で

感服を感じる立坑橋

「金があったら

残す」でなく

残すために

金をつくる

これが政策だ

炭鉱の栄華を観光の目玉にと飯塚市では「旧伊藤邸」を民間から買い上げ文化遺産をまちづくりの観光資源として活用しようとしている。その財源は国の「まちづくり交付金」と、後に国の「重要文化財」指定を受けあてられている。行政はもっと研究すべきだ。

◆ 昨年、志免、宇美、須恵、粕屋の町議会議員16名で「立坑橋議員の会」を結成し有効活用を研究中です。

※ NEDO(ネド)… 独立行政法人「新エネルギー産業技術総合開発機構」の略で、技術開発の実施機関